

冬季北海道国体 飯南町からも多くの 選手・役員が出場

2月14日〜17日に、北海道で開催された「第74回国民体育大会冬季大会スキー競技会」に、飯南町から5名の選手・役員が、島根県代表として出場しました。



那須泉希さん

おつかれさま いっしょにゃんバス 卒業式

3/11月

平成25年から、雲南市の道の駅たたらば番地と町内を往復運行する町営バス「赤名吉田線」として活躍していた「初代いっしょにゃんバス」が、老朽化に伴い卒業することになりました。

このバスを運転し、いっしょにゃんファンでもある大井太さん、玲子さん夫妻は「いろいろありましたが、思い入れのあるバス。お疲れさま、ありがとう」



福間青空さん(手前)

選手には、那須泉希さん(飯南高校1年)と福間青空さん(同1年)が、クロスカントリースキーに出場し健闘。役員として、和久利佳生さん(ジャイアントスラローム監督(少年))、奥野憲孝さん(同コーチ)、加藤郁海さん(クロスカントリーコーチ)が参加されました。



赤名保育所の子どもたちもお見送りをしてくれました

う」と話していました。今後は、新しくなったバスが同路線を走ります。

ココカラはじまる夢 ヒトカラココカラ会議

昨年8月から全6回講座で開催している、飯南町未来の人材育成塾「共創デザインスタジオヒトカラ」hitocolor(イイナン) (以下ヒトカラ)。その集大成として、塾生が「飯南町で実現したいアイデア」を発表する「ヒトカラココカラ会議」を、中山間地域研究センターで開催しました。



第5回講座は企画のブラッシュアップ作業

前段となる2月10日の5回目の講座は、「アイデアづくり三回転三回ひねり」をテーマに、4回目までに塾生が考えた5つの企画の内容を具体化する作業。

3/2土



参加者の皆さん

講師の津屋崎ブランド代表の山口覚さんは「企画のターゲットを絞り込むことが重要。まずは具体的な人物像を考えて、たった一人、その人を泣いて喜ばせる企画を考えてみてください。これまで考えた企画は、それが表現できますか?」と塾生に問いかけました。

ターゲットを絞り込んだことで、思わぬ方向に企画内容が変化したり、新たなアイデアが生まれたりしながら、まさに「三回転三回ひねり」で、企画が磨き上げられていきました。

今後の飛躍を願って 文化交流会

2/16土

飯南町文化協会加盟団体の情報交換や、団体間の親睦を深め文化活動の活性化につなげようと、頼原農村環境改善センターみせんで「文化交流会」が開催されました。

当日は文化協会に加盟する22団体のうち、19団体60人が参加。17団体による出展・発表があったほか、日頃の活動について情報交換が行われました。



飯南ブラススウィング

グループに分かれての情報交換では、「会員の減少や高齢化が進む中で、文化活動をどうやって盛り上げていくか」などが話し合われていました。

小学生から大人まで幅広い世代の人が集まりました



3月2日の発表会には、塾生や一般参加者など約50人が参加。二重の円になってぐるぐる回りながら順番に会話をする「トークフォークダンス」と呼ばれる交流を行った後、和やかな雰囲気の中、発表が始まりました。

女性3人、男性1人のグループは、「女性の癒し時間〜ワンコインビューティ〜、500円で始める新しい自分〜」という企画を発表。これは、メイク教室やマツサージなどのメニューを一律500円で体験できるイベントで、ターゲットは「結婚して飯南町に来た女性」。「知り合いの少ない土地で、職場と家の行き来だけだと、ふさぎこんでしまうかもしれ



パイプレイヤーズ



長太郎活動写真弁士

ない。交流の場があれば楽しいし、情報交換もできる。きれいにいわれる」と、発表者自身の経験と周囲の声を総合した結果、この発想に至ったのだそう。

このほか、4つのグループも企画を発表し、参加者は熱心にメモを取っていました。発表後には、塾生と一般参加者を交えて意見交換し、企画を更に具体的なものに発展させていきました。

今回の発表会で、本年度の人材育成塾「ヒトカラ」は完結。塾生は卒業となり、これから企画実現に向けて実際に動き出します。また春以降、ヒトカラ第二期生を募集する予定で、卒業生はOB・OGとして運営にも携わっていきます。



これからが本番。まずは小さな一歩を踏み出すことが大切